



発行所/青山同窓会
〒951 新潟市関屋下川原町2-635
新潟県立新潟高等学校内
TEL025-266-5268
編集、発行人/上村光司
印刷所/オリオン印刷機
〒950 新潟市南出来島1-19-1
TEL025-283-2151
FAX025-283-3804

佐藤隆氏 追悼特集号
編集責任者 52回 筑波龍子

佐藤隆氏 (52回) 追悼特集号

ごあいさつ

青山同窓会々長

37回 鈴木正二

故衆議院議員佐藤隆殿の追悼特別会報の発行にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

青山同窓会は、その百年に及ぶ歴史の中で、数多くの俊秀、英才が輩出され各界において活躍してこられたことは、

青山同窓会の誇りとするところであります。この間にあって、戦前戦後を通じ政界に進出された方々も多くおられますが、閣僚として、国政に参画されたのは、第52回生の佐藤隆さん唯一人です。

佐藤さんは政治家の家系に育った方でありますので、言ってみれば政治家の純血種であり当然帰結する処であったかもしれません。



元来我が青山同窓生は、どちらかと言えば、学者、経済人、医者、教育者というよう

な型の人が多く、政界筋では、故君県知事さんと共に、出色の方であったと思います。私

と佐藤さんとの関係は、私からで、特に東京青山同窓会の総会では毎年お会いする機会に恵まれ、国際情勢や政界

のことも話をつたり、郷土新潟の将来のことに関して、母校のことなども含めていろいろと細かいことまで

気配りをする人だなーと、感生から佐藤さんのような立派

な政治家が育つことが、故人の霊に報いること信じつつ

な政治家が育つことが、故人の霊に報いること信じつつ

真面目で人情家

東京青山同窓会会長

44回 斎藤 伸雄

残念と言わうしかない。

昨年、母校は創立百周年を迎える今日、彼の強い責任感が

たのは逝去される約10日前頃であつたと思ふ。病室に見舞つ

た時である。彼は人ばらいをして私に安倍先生のことをよろしく頼むと最後まで先生の

ことなりましたことは、真に残念でなりません。このたび同期

の安倍先生も亡くなられたがお二人共生きて居られれば佐藤君は安倍内閣を支える有力

閣僚として活躍されていたであろうことは間違いない。しかしそれも叶わぬ夢となつた。

なるかなであります。生前の佐藤さんを偲ぶと共に、同窓

生から佐藤さんのような立派な政治家が育つことが、故人の霊に報いること信じつつ

彼の魅力はざつとばらんでやんちゃな反面、真面目でよく気がつき、人情の機微のよく判る男であつた。又人一倍負けず嫌いの頑張りやでもあつた。

故 佐藤隆氏 (略歴)

- 昭和15年3月 県立新潟中学校入学
- 〃 18年11月 甲種飛行予科練習生として入隊
- 〃 24年3月 東京農業大学卒業
- 〃 24年4月 農林中央金庫入庫
- 〃 33年9月 農林漁業金融公庫へ出向
- 〃 41年1月 参議院議員佐藤芳男(亡父)秘書
- 〃 42年11月 参議院議員補欠選挙に当選
- 〃 46年6月 農林政務次官
- 〃 51年12月 参議院議員を辞任して衆議院議員総選挙に出馬トップ当選
- 〃 59年6月 自由民主党新潟県連会長
- 〃 60年3月 国連平和賞受賞
- 〃 62年11月 農林水産大臣に就任
- 平成2年2月 衆議院議員選挙に6選、自由民主党総合農政調査会会長

海外旅行に出掛けると電話があつた時も、呉々も身体には気を付けてと申し上げたのであるが、あとで聞くと医者を連れての無理な旅であつたようだ。彼は体をはって男の大仕事をしたのである。

病室で握ってやった彼の手に残っている。のぬくもりが私の手には今も

嗚呼 佐藤 隆君

武田 慎三郎 (旧恩師)

御尊父の参議院議員故佐藤芳男先生(本校第22回大正四年卒業)ご夫妻が昭和42年8月29日、隆君の息、兄弟お三人をお連れして村杉温泉の長生館に宿泊中に羽越水害の山崩れに遭遇し両親と息二人は幽明境を異にし、一夜に他界されました。その悲哀に浸る間もなく御尊父の秘書の君は補欠選挙に当選し、参議院議員として政界に踊り出られました。そして、51年12月参議院を辞任、衆議院に出馬トッブ当選。60年3月国連平和賞を受賞され、国民の一大拍手を受け、次いで62年11月竹下内閣の農林水産大臣に就任。県民の喜悅は一段と高揚し賞賛されました。その上、わが青山同窓会員の中から初めて大臣が傑出された意義は大でした。

隆君は新潟小学校から15年4月県立新潟中学校に入学した生徒でした。私は16年1月

佐藤家の御伯父与一先生も衆議院議員(本校第8回明治34年卒業)で御三人共和国会代議士として論議風発、八面六臂の活躍、行動を展開されておられました。しかるに我等の敬愛する隆君は突如、急逝

悼

拝復 ほんとうにこれから大いに働いて頂かねばならぬ、惜しい方を亡くしました。

御両親様と御子息様も突然の災難で、神に召された不運の中から立ち上られたのに、無情な気が致します。

日中戦争のさなかに召集解除となり、又母校で国語、漢文を教えていました。丁度一年三学期と二年一、二学期です。やがて太平洋戦争が勃発、又召集されて20年8月の終戦には新潟隊区司令部附で新潟市におりました。

されて県民等しく待ち望んだ政治家大成後の笑顔も見せず逝かれた我等の残念無念の胸中をお察し下さい。嗚呼、佐藤隆君よ。切に切に、心から御冥福を祈るばかりです。

黒木 義男 (旧恩師)

新中に在学中は余り目立たぬ方で、話題になった記憶がございません。でも家系から

思いますれば御出世は約束されて居られた事と存じます。御冥福をお祈りするのみです 合掌

追憶記

新潟県副知事

51回 厚地 武

佐藤隆さんとは、一緒に柔道部に籍を置いて以来のおつき合いで、その後長い県庁生活の中で国政と深くかわりをもつ仕事を担当してきた私にとつて、佐藤さんは、同窓のよしみという事で気楽におつき合い願えた、本当に有難い存在の代議士でおられました。

佐藤さんは、自他ともにゆるす農政通で、農林水産大臣もつとめられ、国政の場で、農政に関して大きな発言力、影響力を持っておられましたから、我々としても、大変力強く思い、また、色々な面で大変お世話になりました。特に、農林水産部長を四年間つとめた私は、事あるごと

に、色々とお世話になり、またご迷惑もおかけしたものです。何か問題を持ってお伺いすると、すぐその場で関係者に電話連絡して話を付けてくださるといふ、まことに行動力にあふれた政治家でした。政治家としての大成が、これから大いに期待されていた時に、本当に惜しいという気

悼

安田町長 46回 本田 富雄

私の畏敬してやまない故佐藤隆代議士の在りし日を忍ぶとき、何故か文天祥の有名な「零丁洋の詩」の「人はいつかは死ぬ、せめて忠誠の真心を世にとどめて、歴史の上に輝かせたいものだ」という意味の「人生古より誰か死なからん、丹心を留取して汗青を照さん」の句が思い浮かびます。

先生の急逝された4月17日は、第12回統一地方選挙の悼尾を飾る町村長並びに町村議会議員一般選挙の二日目に当たり、私も古里安田町の現職町長として七期目を目差しての激闘の最中でありましたが、

持ちで一杯です。思いがけない時にひよっと電話をかけてこられて、「いや、アッちゃん、実はねー」という佐藤さんの歯切れのよい、元気な声が、いつまでも耳に残っています。心からご冥福をお祈りいたします。

この秋を転機に父上の後継者として国政壇上に進まれ、

「災害男」の異名をとるほど、自然災害克服、防止に執念を燃やされる一方、専門とされる農政をはじめ世界人口問題など正に八面六臂の大活躍をなされたのであります。職務柄、年毎に上京する機会の増えた私は、衆議院第二議員会館三二二号室を無料の安田町役場東京事務所を利用するわがままをお許し頂き、建設、農林、自治、厚生など中央諸官庁への陳情拠点として大きな成果を得ましたことも先生のご支援の賜物と今更ながら感謝いたしている所でありませぬ。

阿賀野川治水事業の重点項

雄者を替える

前県議会議長

50回 轡田 勝弥

佐藤隆先生の兄上である故一（はじめ）氏は、私の青山50回同級生である。従って中学時代、亀田と新津から新潟へ通学した汽車通の仲間であった。その後、台風災害で亡くなられた尊父の後をうけて、参議院議員になられてから、またお会いするようになった。昭和44年新津の桂市長時代に

目であります早出川改修事業や東北横断自動車道いわき・新潟線の愛称を磐越自動車道と決められ、事業の促進を図られたこと、カリフォルニア米の国府田農場視察にサンフランシスコ日本総領事館の幹部を派遣同道させたことなど、古里の繁栄に貢献された偉大な政治家佐藤隆先生を追慕する者は私だけではないはずであります。

平成3年9月23日、共に先生を尊敬してやまなかった妻正子の死に会い、人生無常の感一入であります。行雲流水 ただただ 合掌

水道汚職が起き、課長、助役逮捕をして市長辞職と言う事態となり、新津に重大な危機が到来して、私に市長選挙出馬の要請が強まり、当時、市教育委員でしかなかった若輩43才の私に連日出馬推薦に來られたのが、佐藤先生と故長谷川多喜男県議であった。この昭和45年早春の選挙は、私

にとつて初めての厳しい経験となり、見事に落選したわけですが、これが私の政治への入門となったのである。それから四年間が私の苦難時代となるが、昭和48年暮に私の先輩である長谷川多喜男県議が急逝され、その補欠選挙に私が立候補して今日に至っている。その時の党支部長が佐藤先生であった。4人の候補者がたつて党支部公認の段階で激しい争いとなった。最後は投票で決めるという経過で佐藤先生には、大変お世話になった。

その後、佐藤先生は衆議院に移り、自民党本部組織委員長に就任することになった。気性の激しい一面、思慮の細かい佐藤先生は、こうして経歴を積み重ねながら大きくなってゆかれたように思う。私にとつても有難い経験となり、今、六期目の県議をやらせて頂いている。私が、国道四〇三号（亀田・

新津・三條）建設のため田中角栄先生の所へ足しげく陳情を重ねている時、佐藤先生は黙って見ておられた。亀田・新津間の晴れの開通式パレードの当日、私の手をしっかりと握り、おめでとうご苦労さまと言ってくれたのが、今でも私の心に印象深く残っている。

佐藤隆先生を懐く

58回 近 寅彦

秋天に みなぎる力

つきぬけし

佐藤隆先生が農林水産大臣

ご就任の時の句です。また、

回想録「想」の序に、先生は

「厳しい417日だった。命

がけの417日でもあった。

いまふり返ると、苦悩に満ち

た、しかし充実した日々だった。」と述べられています。

新発田は農業で生きてきた

ところだけに、先生の入閣、

しかも農水相は大変な喜びで

したが、先生の常に「人生意

気に感ずる」ご活躍や人一倍

己に厳しいご性格を存じ上げ

ているだけに、地元では、先

生の健康を心配する声も多く

ありました。

しかし、あの、日本農業は

じまつて以来の未曾有の国難

念碑が建っている。国会議員と県議会議員連係の公共事業の結実となった。新津市民会館で行われた合同葬に、私は県議会議長として最後の見送りをさせて頂いた。議長現職で遺徳を彰せることの出来たことが、せめてものご恩報じと思っている。

私に私は、後援会の皆さんを前に、大臣ご就任は、正に「男子の本懐」と激励させていただきました。いま省みて、私達にとつて最も大切な筈の先生の御生命を縮めてしまったことに加担していたことを思い、悔いても、悔いても、悔いきれない、遣り切れなさいといっぱいです。後年、先生は人口問題のご功績で国連平和賞に輝かれましたが、これは奥様のお母様（丹羽美代初代県助産婦会々長）の縁もあつたのでしようか、厚生省内でも母子保健の第一人者として知られていました。当時先生は参議院議員、私は厚生省技官としての母子衛生課に奉職しており、いま最大の課題の「出生率のゆくえ」など随分とお教えいただきました。

その後、先生は衆議院に、私は非才をも省みず郷里で市長選に立候補することになりました。先生は故君知事さんから「近をなんとか当選させてやってくれ。」と懇願された、当時、当落のキメ手でもあった立会演説会の演説の骨子をメモに書いて渡してくれました。「どうせ野次られる、演説は電報調がいい。決して講義をするな。」と背中をポンと叩いて激励してくだ

さった先生の仏様のような温顔は生涯決して忘れないことでしょう。これからも国民にわかつて貰える食糧政策に情熱と責任をもって「この道」をゆく。と仰っしゃったばかりの先生が、こんなにも早くご他界になられるとは、日本の将来のために惜みても余りあり、本当に残念でなりません。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

も悪い影響を及ぼしかねない勢いであった。国内世論との大きなギャップを背景に苦しい対応を余儀なくされた時期であり、そして、米の自由化阻止への論理展開に大変な御努力を戴いたのであった。先輩はまた国会においては災害対策について特に熱心に取り組まれた。愛する御家族を災害で失われるといういたましい御経験が政治へのポテンシャルとなり、災害対策へと向けたものと拝察されるが、災害問題には始終情熱をもって政府側との接衝にあたられた。災害に対する原因の究明、防除対策の充実、被害者救済措置の充実など熱心に取り組まれたのである。政府

先輩に捧ぐ

新潟市長

61回 長谷川 義明

佐藤隆先輩は農林水産大臣と云うまさに国政の最高の任務を全うされた。政治家としては最高の榮譽を擔われたと同時に、おそらくその胸中には国政のあるべき姿を想い、国益のために何をなすべきかの純粋な政治理念に燃える日々を過ごしておられたに違いないと拝察している。

農林水産大臣御就任の時期は丁度日米経済摩擦について米国内世論が昂まり、特に農産物自由化、米の自由化への対日圧力が強まり、貿易障害の典型として日米貿易全体に

思い出

東京農大校友会新潟県支部長

39回 佐藤 裕雄

去る4月17日東京からの電話で佐藤隆君急逝を知り、深い衝撃を受けた。隆君は責任感が強く、清潔で、汚濁の政界には稀に見る存在であったと思う。彼は不運に

う。「プロの大匠」として、もう一度充分に働いて貰いたかった。それだけに彼の早死が悔やまれてならない。彼とは中学、大学共に同窓であり、職務上でも接触が多かった。中でも、思いでの深い一つに「農林漁業金融公庫の新潟支店」誘致がある。公庫は政策金融の機関で、支店は地方農政局の所在地に設けられ、本県は、本庫の直轄であったので、支店の誘致を決意したが、肝心の農協県連の主脳や、知事は消極的であった。当時、本庫の調査役であった隆君。彼の敬父で参議院議員の芳男氏と相談し、昭和38年の下期から、支店の実現を期して、活動を開始。交渉相手は農林、大蔵の両省で特に大蔵は、一県、一支店は認めない方針だったので、難航を極めたが粘り強い交渉の結果、遂に昭和40年、新潟事務所(後で支店)の開設が決まり、互いに労苦を稿らい、喜び合ったものだ。今は、お二人共幽明境を異にされたが、思えば不思議な縁であった。もう一つは、1985年に彼が受賞した、国連平和賞にまつわることである。「スウェーデン」の世界的な生化学者「スネ、ベリーステレム氏」の警告を紹介する。その要旨は「世界人口は、途上国を主に、今世紀末には60億に達し、対策をあやまれば、21世紀には100億にもふくれ、環境破壊は限度を超え、生活環境は劣悪化し、人類の危機となる。抜本策はこれらの国々の、生活教育水準を引上げることであり、ここに大国の責任がある。」と云うものである。「マルサスの人口理論」の信奉者でもあった彼は、この影響を少なからず受けていたようだ。国際会議には進んで出席したし、既に「リーダー的存在」になっていた。「一文の得にもならないのに。」と言った、低次元の批判には、耳をかきなかった。こうした彼の活動が国連に高く評価されたのであろう。まさに平和憲法の理念に沿う、国際貢献ではないか。思いでは盡きない。隆君、安らかに眠り下さい。合掌。

佐藤隆と俳句

41回 丹羽 正樹 (義兄)

一と時も休む暇のない生活に、今に身体が参ってしまふからと、すゝめたのが俳句、勿論ずぶの素人だからはじめは17文字の羅列にすぎなかつた。

「たしかなる明日がはじまる除夜の鐘」
「去年今年党の土台に徹すべし」

「抱負なほ腹におさめて鯉職」
「両の手に孫かき抱き初詣」
「秋をみまなざる力突きぬけし」
「父の果せなかつた大臣の椅子についた。正に亡くなった父への最高の親孝行を果した隆の得意の絶頂たるや今もなほ思ひやられる。」

「故郷の味いたゞし茶豆かな」
「春の日のごとき心で話さばや」
「牛肉、オレンジの頗る難しい交渉で渡米、当時の隆の複雑な心境に対する私の唯一のアドバイスに対する気持ちを詠

んだもので隆の句としては最高ではなからうか
「爽にねぎらいありし御言葉」

後日新宿御園の園遊会の折、昭和天皇からねんごろにねぎ

弔 辞

52回 武笠 昭二

本日ここに旧制新潟中学校の、同期生の一人として、余り健康でもない私が生きていて、極く最近まで元気で、活躍されておられたあなたが、急に亡くなられ、その弔辞を

読まなければならぬ私の気持ちには、誠に断腸の思いであります。

顧みれば、共に柔道部で絞られていた当時の、あなたの写真を見ますと、四年生にも拘わらず紅顔の美少年でした。

昭和18年10月、15才数ヶ月のあなたは、お国の為に、甲種飛行子科練習生、即ち子科練に志願され、出征されて行きました。あなたと私ともう

一人の級友の三人で、新潟市二葉町のお宅で、送別会をしたことがまざまざと思ひ出されます。あの時分は、親兄弟も恩師でさえも止めることは

らしい御言葉を賜ったと感激して話してくれた。此の句も前の句と同様上々の句。

此の企画に御世話頂いた皆様に厚く御礼申し上げます。

追 憶

52回 広川 彰恩

顧みれば、佐藤隆君と知遇を得たのは、昭和15年以来50年、此間お互に境遇も違い、お互に歩んだ道は異つてゐたが、何時の時代も心丈は通いつつてゐた。

余りにも早い命に呆然としたのは私丈でなく大方の人々の心情であつたと思う。如何にも潔い、武人にも似た壮絶な最期であつた。

想い起せば昭和19年敗戦の兆濃厚な時期に敢然と志願して戦争に参じた事と思ひ合せると先ず人間として純粋であり、義に厚かつた、これこそ男の美しさと言ふものであらう。

隆君の死によつて肉身の姿形は消えて了つた、然し乍らいよいよはつきりとそして身近かに生き生きと生涯貫き通した強固な信念而かも尊く光り輝いてゐるのは常に正念で

平成3年5月15日
旧制新潟中学校第52回生
3月会代表 武笠昭二

私も何れ御もとに参ります。此天下に誇り得る偉大な政治家を友として持てたことを私の終生の喜びとして頂き、悲しみの心を押さえて深い感謝の真心を捧げつつ。 終

佐藤隆君を偲んで

52回 澤田 義郎

畏友「隆さん」を偲ぶ

52回 山崎 利兵衛

憂国の士

政治家の次男に生まれながら戦中は率先して予科練に進む。国を守るの意気や壮。

両親と息子二人を災害で亡くし、災害の救済にと自らも政治家となる。農林水産大臣となるや国の興望を一身に担いアメリカに渡り、牛肉、オレンジの自由化交渉にあたる。

一度ならず二度でも三度でも閣僚として、国家、国民のために活躍してもらいたかった。向う気の強い頭張り屋だったが茶目ッ気十分

新中時代の彼は、並いる秀才揃いのなかであって、品行方正學術優秀とお世辞にも申せなかつたようだ。柔道部に属していたが、広川彰恩などというバカ強い同期生の陰にかくれてか、これもまた大したことはなかつたようだ。しかしあの精悍な面構えから伺われるごとく、向う気の強い頑張り屋で、猛者連に戦を挑んでいたようである。それ

いことをいって我々を笑わせていた。これは大臣になつても全く変わることがなかつた。新潟のホテルで大臣就任祝賀会が開かれた。大勢の人に囲まれ、大臣といえども緊張も

し、氣遣いもあつたようだ。しかし、我々同期生のグループを見付けて寄つてきた彼。もう彼は昔の佐藤隆にもどつていた。襟を脱いで気楽に話せる仲間。この時の話は宮中の便所の話。彼の茶目ッ気ぶりの面目躍如。

52期生の中心的存在 52期生はまとまりがよかつた。それは中心的存在として彼がいたことと、それに加えて名参謀筑波龍子君がいてこれのとりまとめをしてくれた

ればこそである。52期生もやがて65才。今中心的人物を失い、寂しきも一入である。彼亡きあともわれわれの財産である同期生、ひいては同窓の絆を、今後とも大切にしてゆきたいものである。

「隆さん」が逝つて丁度5ヶ月になる。秋風たつて寂しき一入のこの頃である。

「隆さん」と私は、いわゆる亀田もん、新中、東京農大も同じで、折にふれてはお世話になり、時には厳しい御指導も頂戴したという仲である。

新中時代は、小柄ながら柔道をもし、元氣いっぱい賑やかに動きまわり、戦雲急を告げるや、国を救わんもの

率先、予科練に征くという熱血漢であつた彼、そして農大時代は、共に応援団に属し、未だ周囲に瓦礫(がれき)のころ後楽園球場で(戦後、間もなく東都五大学リーグ復活の頃)、新宿で、渋谷の街角で、羽織ハカマで声を枯らしてうたい、おどり、下宿では、日本農業は、農村の将来は、と深更まで目を輝かせ説く憂国の農学徒であつた彼、はた又、金ポタンの学生服にグレーの替ズボンがよくきまり、ダ

多才であつた青春時代の面影が去来してなつかしい。彼は、若い頃、「俺は政治家にはならん」とよく口に

たものである。しかし、所詮は政治家の子、されどもあの悲劇を背負つての政界初登板にならうとは。ふれたくはないのだが、四つの棺を前にして、悲涙を払い、怒髪天をつ

く彼、いやす間もなく参院補選へと街に飛び出し、訴える彼、悲愴感に覆われた当時のことが否応なしに浮かんで今なお切ない想にかられるのである。

以来、命の尊さ、いつくしみ、を政治展開の理念に据えて、眈を決して挑戦してやまぬ彼の災害男、人口、食糧、農政の権威としての活躍は、内外に感銘を与えて、不滅の金子塔となつて遺されたことは、多言を要すまい。ところで彼は、彼の著書「想」で、農水相時代を回顧し、その冒頭で、「厳しくも命がけの417日であつた。

ふりかえる苦悩に満ちたし、かし充実した日々であつた。」と記している。疲れたであらうあの日米交渉、悪ければ徹底的に休めばよかつたのに、

やっぱりこれも政治家の宿命なのか、と思うとやり切れな

いだが、4月18日の朝、彼の枕辺に立ちすくみ見た彼の顔は、荒行を終えた僧に似て安らかで穏やかであつた。波乱万丈だつたが彼の生きざまは、人生は、短かつたが、珠玉のものであつたのだ、と

私と同級生であると同時に義兄といふ立場でもある。妹が嫁ぐに当り「絶対に選挙になんか出ない」といふ約束をとつた。そんな人生なんか大変だろうと妹に同情したからだつたかどうかわれたが、まあそんな事を約束したなどまともに考える様な奴でない事等百も承知だつた筈。

義弟としての「隆」

52回 丹羽 昭

未だ雲仙が大変である。血は騒ぐであろうが今はあの世とやらで御両親、二人の御愛息、それに早逝されたお兄さんと一つ輪になつて、地酒でも汲み交わしてゆつくりと休んでください。御苦勞様でした。本当にお世話になりました。 合掌 (9月17日記)

亡くなった長男は私の長男と、助かつた次男は私の次男と同じ年。葬儀の日の悲しみを想い出すと命日にも私は自分の子供の顔も見せる事も出来ず家で冥福を祈るばかりであつた。

あの人生のこれ以上ない様な最大の悲劇を振り払う様に、その後の彼は、苛烈な政治の

斗いの中に飛び込んで行った。そして目を目張る様な活躍を見せてくれた。

「新潟の佐藤」から「日本の佐藤」へ、そして「世界の佐藤」へと。

輝かしい光芒を放ち一直線の軌蹟を残しつつ彼らしく未練なく、鮮やかに人生の幕を引いた。

63才、余りにも早く待ち受けていた終局を感じていたのか、彼は全速力で人生を駆け抜けて行ってしまった。

人を愛し、人に愛された、人なつっこい笑顔を一片の遺影として。

然し、あの水害を一人生死の境から選って来た次男は今や立派な歯科医として独立して活躍中、後で私の医院で産まれた四男は大学生として、

遅いラグーマンとして大器の片鱗を見せている。

隆亡きあと残された家族が更に精神的にも健康面でも遅く生きて行く事を念ずる丈である。

私に残された日々がどの位か判らぬが出来る丈支えとなつてやりたいと思っている。

皆様には大変御厄介になり

ました。厚く御礼申し上げます

追記

昨年11月の新潟市市長選について隆と私の事について一部不協和音のある如き巷説を耳にしておりますので彼と私の名誉の為に一言申し上げます。

長谷川氏が建設省より新潟市助役として迎えられて着任された時二人で一夜盃をあげ彼の決意を聞きました。その後は彼の大願の成就に全面的に協力いたしました。

起意表明に当って私は隆に了解を求め彼も私の意志を尊重して敢て反対をしませんでした。

私は若手経済人が主体の「新潟の21世紀を考える会」の会長となり「保守市議の会」及び「市建設協会」と三派合同して保守大連合を結成しその会長となって選挙の終盤を

闘い抜いて勝利を取る事が出来ました。全て「人間思ふまゝ、思い切りやろう」と、お互いの立場を理解し尊重した上の事でありました。



52回 安東 道夫

彼との始めての出会い、新潟小学校三年の秋富山の小学校から転校して来た時です。当時彼も亀田小学校からの転校生で御多分に洩れずイジメラレツの二人でした。頭に来て今は中央警察になっている武徳殿へ柔道を習いに通いました。多少技も覚えたらある日反撃に出て見事に背負投げがきまりボスがギャーと言った時程気持の良かった事はありません。それ以来なんとなく一目置かれる様になった事を覚えております。それ以来彼は柔道をやっておりました。

その頃彼の家は二葉町の松林の前にあり夏になると双眼鏡をもってグミ林を匍伏前進しアベック探しによく出掛けました。彼等の去った後には不思議といつもいくつかのチリ紙が散乱しておりこのあたかいののどうしてこうも鼻紙がいろいろかと思つたものでした。後日筆頭幹事長の頃でしたかその話を、虫目眼で火を付けて臭いをか

が今はすべてがなつかしい思い出ばかりです。

佐藤隆君の憶い出

52回 白井 堅雄

母校を出てから半世紀経つて了った。我々の同年に佐藤君が居られ、余り大きい人ではないが柔道をやって居られたとの記憶がある。

彼が御父君の代りに総選挙に出られるため、亀田町から新津市に住居を変えられたとの話を聞いたが、当時は未だ付き合いはなかった。昭和51年12月の総選挙で参議院から衆議院に鞍替え出馬され、八万八千票という大量の票をとられたが、残念ながら新津市では後援会の幹部の方々が一寸した勇み足で選挙違反に問われて了った。当時三市中蒲医師会の青山同窓の先生方が佐藤君を応援したが、その取りまじめを私がやった関係上後援会長を頼まれた。その時から佐藤君との交友が始まった。

まず驚いたことは、その弁舌の爽やか、滑らかなこと、まことに見事なものであった。どこからボンボンとあの名演

説がとびでてくるのだろう。それにひきかえ当方は、人前で話をするとなかなか全然大丈夫で、又性格的にも内向性で挨拶をさせられるのも冷汗もので、これは困ったものをひきうけて了ったと後悔の毎日であった。併し、向うはしゃべる商売、こちらは仕事が違うから上手くしゃべる必要はないと割り切つて了い、次第に横着になってぶつつけ本番でやるようになったが、その方が素人らしく、又短くてよいと評判もよくなったようである。

次に感じたことは、かれは非常に正義感の強い人で、田中角栄さんの全盛時代と同じ県内に居ながら彼に同調せず、金権打破、派閥解消を叫んで居られたことは立派であつたと思う。派閥を抜けたため少し遅れたが、遂に念願の農林水産大臣に就任され、私達は翌朝大挙して上京し、大臣室で晴れがましい佐藤君にお会

いた。その彼が、激しい激務のため寿命を縮められ、平成3年4月忽然と昇天された。まことに惜しい人物を亡くした。ご冥福をお祈りします。

佐藤隆代議士を悼む

52回 皆川 洋作

平成3年4月17日、佐藤隆代議士は急逝されました。将に巨星地に墜つるの感を深くします。政治家としてはこれからは熟達の域の齢なのにと残念でなりません。生者必滅、会者定離は世の習いとはいえず、誠に感無量なるものがあります。

故人は全く飾らず偉ぶらず気さくで、本当に親しみの持てる人でした。大臣になられたからといって少しも変わることはありませんでしたので、やあ！なんていって片手を上げながらひょっこりあの笑顔を見せてくれるような錯覚すら覚えます。

思えば、昭和42年8月、下越地方を襲った集中豪雨、いわゆる羽越災害で御尊父と長男、三男の二人の最愛の御息を亡くされたのですが、亡父の後を継ぎ参議院議員の

た。もう二度とこんな立派な政治家はこの地区からは出ないだろう。ご冥福をお祈りします。

友よ安らかに

52回 宮原 昭三

平成3年4月17日深夜、テレビで「元農林水産大臣佐藤隆氏死去」の報道を目のあたりにして、わが目を疑う。次に彼の元気な時の顔や姿が目には浮かんでくる。想い出が走馬燈のように走る。「佐藤隆を励ます会」。「国連平和賞受賞パーティ」。「同期生による大臣就任祝賀会」等々。その時の彼の雄姿を思い浮かべ、これからは本番と期待していたのに。残念至極。

隆兄とは柔道でお互いに柔かい汗を流し、練習後は帰る方向が同じためいつも一緒にいた。その事は20数年経った今でも昨日の事のように鮮明に思い出されます。その後52回の同期会や青山同窓会の総会等でしばしばお逢いしましたが、私が校長になってからは、学校建築の陳情などお願いした事もあり、いろいろとお世話

になりました。いつも誠心誠意事に当たっていただき本当に有難く感じていたものです。佐藤さん、あなたは逝くにはまだ早過ぎました。惜しみても余りありますが、悔やんでもかえらぬことです。この上は、あなたの御偉業を回顧して、霊安かれと御冥福をひたすらお祈り申し上げます。合掌



佐藤君(左)と宮原(右)

兄を偲ぶ会を催す。品川湾に屋形舟を浮かべ、一同黙禱のあと盃を交し、想い出話はいつまでもつきなかつた。8月11日、小生の義兄の納骨のため亀田の通心寺を訪れる。偶然そのお寺に隆兄の墓があることを知る。墓石には「俱會一處」と刻まれている。彼が農政で頑張っていた頃、私は経済連で米を担当し、県には農水部の課長5人(経済(沢田)水産(阿部)畜産(山崎)漁港(安東)普及(岸田))が同級生だった。こんなことはおそらく初めて最後なのかもしれない。彼が経済連になると、私のところへ前ぶれもなしに「ヤアヤア」とやって来て色々話していく、まさに風のように事務所の女性があとであの人が大臣と聞いて目を丸くしていた。

佐藤隆との二人三脚

52回 渡辺 巨

(元新潟県経済連米穀部長)

彼が農政で頑張っていた頃、私は経済連で米を担当し、県には農水部の課長5人(経済(沢田)水産(阿部)畜産(山崎)漁港(安東)普及(岸田))が同級生だった。こんなことはおそらく初めて最後なのかもしれない。彼が経済連になると、私のところへ前ぶれもなしに「ヤアヤア」とやって来て色々話していく、まさに風のように事務所の女性があとであの人が大臣と聞いて目を丸くしていた。過去には、県・農業団体・国政間の足なみが揃わないとの批判があったが、この同級生一同が裏方として結束した

7月23日、同期生有志で隆喪主のご次男徹氏の立派なご挨拶に心をうたれる。

効果が当時あったと今でもなつかしく思っている。

大森の料亭で、故江守社長（元日本アイスホッケー協会副会長）から三人で楽しい時をもたせて頂いた、新潟とは一味違う芸達者のお姐さん揃いで、私は痛飲したが彼は吞まずでも「歩」を歌ったり、談笑したりで大いにリラックスしていた、三時間近くを過し待たせていた車で帰った。そのあと社長は「初めてお会いしたが、佐藤さんは素晴らしい方ですね」と賞められた、その後も長く応援して頂いた。また秘書の勉強会も何回か

佐藤 隆君を思い出す

52回 成田 昭一

佐藤隆君との出合いは、（幼年時代の亀田での記憶が余りにも薄いので。）新潟中学の柔道部であったと思っ

ている。爾来、50年余に亘るつきあい、彼とのさまじきまな思いが、次から次へと懐かしく思い浮かんでくる。

その当時の柔道部は、伝統

たのまれた、「米の流通の問題点」のテーマでナイターで

ある。あとで櫻井新さんに連れられ、二次会は彼と三人になり赤坂のクラブでマイクをもちなどということもあった。「隆」は本当に金集めが下手だった。私の知人で全国から応援をして頂いた方々へは彼はていねいに直接電話するなどしてくれたのでとても評判が良かった。もう少し永く生きていたらとも思うが、惜しまれて散るのが櫻花、彼も私も広瀬さん（相談役）もみんな子科連であった。

稽古が終ると、明るい大きな声で冗談を云っては周囲の人を笑わせて、何時の間にか柔しい雰囲気になり変えていた姿が、今でも臉にはつきりと浮かんでくる。当時の隆君は、強い意志と熱い情熱とを静かに秘めた、そして飾り気のない言動で、自ずから人に好かれ、人を引きつける、独特の魅力を具えた紅顔の美少年でもあったのである。

と、加えて戦時色の益々濃くなってゆく時期でもあったので、先輩からは厳しく鍛えられ、また同期生同志とも気合の入った稽古が続けられて、

終わった時には何時もへとへとに疲れ、同時にほっとしたのももあった。そのように猛稽古が続いたどんな時でも、隆君からの弱音は一切聞いたことはなく、

音は一切聞いたことはなく、

来たものであった。彼が農水大臣に就任して一度一年目に当る日曜日に、誘われて千代田カントリーでゴルフを一緒にしたが、その日は雲一点ない、穏やかな小春日和の天気には恵まれ、ほんとに楽しい一日を過ごさせて頂いた。

その時護衛の方に、大臣がこんなリラックスされて楽しまれた姿をお見受けするのは始めてである、あなたと大臣とは一体どういう関係なのでしょう、と聞かれたことが、私の心に強く残っている。（もつとどどんと会いに行けば良かったものをと、心が痛む。）

思えば、最後の電話を彼から頂いたのは寒い2月のことであった。何時ものように、お一成田、元気がで始まる挨拶に変わりはなかった。

一年後に迎える彼の議員生活25周年のお祝い行事を中心に、四方山のことを楽しく話し合っ、それじゃあまた元気でな、という何時もの通りの挨拶で電話は終わった。

ほんとに明るい元気な声であつたのに。その声も、もう二度と再び聞くことは出来なくなつた。全く無念である。

故佐藤 隆君の思い出

52回 田中 宏

彼と私は小学校後期、中学、軍隊とよく遊び駄弁りそして苦業を共にした思い出がある。彼は新潟小学校、私は湊小学校であったが、当時共に二葉町の山手に住んでいた。裏に松林があり中間に二葉高等小学校（現二葉中学）のグラウンドがあった。其処で彼や彼の兄（故人）及び他の仲間達とよく軟式野球で遊び、終ると日和山の団子茶屋であん団子を食べた事が懐かしい。

中学二年の時、彼が陸軍幼年学校を受けようと誘つてきた。私は陸軍は好きでないの断つた。暫くして彼は君の願書も一緒に出したから、とも角受験しようといつてきかない。夏の暑い日、新発田で一泊して、受験したが幸い身体検査で不合格となりほっとした。海が近く毎日泳いでいたので結膜炎にかかり疑似トラ（トラホーム）と診断され

秋になって海軍の甲種飛行子科練を受ける事になり舞鶴へ行った。彼の外、田中昭治、本間昭三、細貝敏雄、小黒和隆、山下十四男、藤巻昭、長谷川玄一君等が一緒だった

思。

12月1日、三重航空隊奈良分遣隊に入隊した。奈良県丹波市町（現天理市）である。兵舎は天理教徒の詰所であった。比処でも偶然彼と私は同じ分隊に配属された。約一年の教育を受け、19年11月飛行練習生として各地に分散した。彼も私も偵察要員として鈴鹿航空隊配属となった。田中昭治君及び一年後輩の橋本一弥君も一緒であった。冬を迎え戦況も悪化しており訓練はかなり厳しかった。

彼のお義母さんはよく食物等を持って面会に来られた。時に私の母も一緒だったが、本当に彼を慈しんで下さった方だと思ふ。私達同窓生も随分ご相伴に預かった訳で心から感謝している。

私の知る限り、彼は明るく活発な男であった。親御さんの跡を継いで国会議員となり農水大臣も務められた。現在人生80年と云われる時代に63才の若さで急逝の報に接した時、昔のあの活発な面影が偲はれ残念でならなかった。心からご冥福をお祈りする次第である。

「春の日の如き心で語らばや一粒」
率直に表現されたものと思ふが、出席した我々にとって今となつては残念ながら彼の辞世の句になつた思ひである。東京青山52回生は近年は、毎年クラス会を開いており、彼は多忙な公務の中ほとんど出席してくれず「おめでとう」の悪童に戻ると必ず「おめでとう」いつになつたら大臣になるんかネー いつも候補者

この名前にのろろも駄目なつてるがネー もうなれネーのじゃネーか」とやられてい

クラス会での佐藤君

52回 北村 新平

仲間に来て語り合う喜びを率直に表現されたものと思ふが、出席した我々にとって今となつては残念ながら彼の辞世の句になつた思ひである。東京青山52回生は近年は、毎年クラス会を開いており、彼は多忙な公務の中ほとんど出席してくれず「おめでとう」の悪童に戻ると必ず「おめでとう」いつになつたら大臣になるんかネー いつも候補者



齋藤(左) 佐藤 阿部

たのが懐かしく思い出される。興にのればカラオケで洗いの

少年の笑顔よ、永遠なれ

52回 村川 修二郎

5月23日、元農林水産大臣佐藤隆先生の自民党葬が築地本願寺で行われ、斎藤泰五郎氏始め新中の同期生並びに有志11名が参列、親族席最前列において彼に別れをつげた。帰途、彼を偲んで会食しながら一同久闊を叙す。盃満ちて酔い至れば、もはや同期生にとつては、元大臣でも議員

ドを披露するなどの多才ぶりもみせてくれた。大臣就任直後の激励会では、どうしても仕事から抜け出せず、昭和天皇と竹下総理の大臣任命書を納めた大きな額が会場に届けられた。その任命書を上座に据えて本人不在の激励会になったものである。この7月に同君を「恩ぶ会」を東京湾に浮ぶ屋形船で開催し、52回生のみならず53回の佐藤良策、林博のご両人にも出席戴き、同君にまつわる思い出話を花を咲かせた次第。心からご冥福を祈りつゝ、

中学三年になつた時、彼の教室は二階南側それも校内をのぞむ正面玄関の真上であつた。或る日の昼休み、何気なく外を見ると丁度数学の某先生が校門へ向かつて歩いて行くところである。小柄なこの先生は、その風貌といふ大手を振つて大股に歩くところといふ、ナゼかあの喜劇俳優「エノケン」にそっくり。そこで悪童どもは、赴任早々この先生に早速エノケンなるニックネームを献上した次第。さて校門へ向う先生のユーモラスな後姿めがけて、突如二階の窓から声がとぶ、「エノケン」：こう叫んだ生徒は、先生が振りむくより早くサツと姿をかくした。居合わせた生徒の何名かは何事かと窓辺へ寄る。一瞬の後、事の次第を悟るとワツと教室内が涌く。

しかしこれで一件落着とはならなかつた。アツと云う間もあらばこそエノケン先生息せき切つて二階まで駆け上がった。その早逝を惜しむばかりであった。本稿はその折の話をもとに、中学時代の彼のエピソードの一端を披露させて頂く。

窓からバツと飛鳥の如く正面玄関の屋根の上にとび出してしまつたのであつた。これから先の事はそれこそ想像に任せるとして、この時の先生の形相に比べ、赤い顔から血の気の失せた彼の表情は正に「こんげなハズでねかつたんだれ」と云つていようだったとか。昭和18年戦局は急速に悪化し、多くの学生、生徒は勤労動員か、軍人へと志願して行つた。彼もまた海軍甲種飛行予科練習生として三重海軍航空隊奈良分遣隊に入隊するのである。同年11月29日新潟の空は暗く寒い、午前7時、新潟駅出発のため、一緒に入隊する者約20名と見送りの家族や友人が続々と集まつて来た。制服に制帽、寄せ書きしてもらつた日章旗を両肩から襷がけにした凜々しい姿の少年達である。出発時間が近づくにつれて、駅前広場は人の波旗の波となる、あちこちで壮行の辞がのべられそしてパンザイの渦が連呼する。そんな時であつた。駅前広場の一隅に造られた土饅頭型の防空壕の上に、一人の少年が駆け上がったのである。見

ると日章旗を纏がけにし、左手は腰に、高々と振り上げた右手にはエビ茶色の応援旗が揺れている。両目は大きく見開いて辺りを睥睨、頬は紅潮して輝き、大音声で何ごととか叫び出した時には駅前の群衆の目はすべてその少年に注がれた。恰もそだけに光が当たっているかのように雄々しく美しくさへ見えたのである。

夕風に草木もなびく
雲乱れ 川どよもして
中原に雄鹿争う

期せずして湧き上る大合唱。早朝の駅頭に応援歌が渦巻ぎ、嵐となつて燃え立つようであった。いつしか彼の頬に光るものが走る、彼はそれを振り払うかのように一段と声を張り上げ、エビ茶の旗を激しく上下させたのである。その様は

災害男の偉業

52回 小澤 興栄

昭和42年県北地方を襲った8・28水害は、多くの被害者を出した。29日早朝村杉温泉で発生した山崩れによって瞬時に御両親と二人の御息を

失った彼も被害者の一人であった。常日頃、人は安全で明るい健康的な生活することが大切だ、と云っていた彼の心情

を察するにあまりあるものがあつた。自分が経験した苦しみのやり場のない自然災害の被害者を少しでも救ふこと出来る制度を一日も早く作らなければと云う決意で、亡き父上のあとを継いで参議院議員となり、全身全霊を傾け、議員提案でつくり上げたのが、

「個人災害救済法」(災害申

慰金の支給及び災害援護資金の貸付に関する法律)であつた。その成立が仏の7回忌の年に当たっていたのはなにかの因縁であつたような気がしてならない。

この法律の解説書を発刊しその序に
きゆうさいほう とどけほと
けの かげしのぶ
ななとせの あせをえがおに
じぞうそん

の句が載せてあるが、この時の彼の気持ちが見えらる。法律の成立、救難六地蔵の建立、和訓延命地蔵経の編集など災害でなくなった多くの人の霊を供養するための仕事が出来たこの年は彼にとつて意義深い年となつたことであらう。

豪雪、台風などのような自然現象によつて被つた被害は、

相手が自然であるだけに、損害補償の請求も出来ないことから公共的な被害については、国や県などの力で復旧等の対策が取られたが、個人の受けた被害については部分的な救済しかなかったことから、災害対策基本法が制定された昭和36年頃からもっと手厚い援護を総合的に考えるべきではないかと云うことが国会でも議

論されていたのが十年余りの日時を経てやっとこの法律となつた。これには、「災害男」の異名を取るほど熱心に災害の現地を見舞いその実態をつかむと同時に諸外国の実情を調べて廻るなどした結果の提案であつたとのことであり、まさに彼の情熱の賜と云わざるを得ない。

法律の出来た当時、災害対策に関係した仕事をしていた私にとつて大きな感動である

と共に同級生としての誇りすら感じたものであつた。決して長くはなかつた議員生活であつたが、「国連平和

三月会の思い出

52回 筑波 龍子

賞」の受賞、農林大臣としての活躍など、後世に語り継がれる実績は多いが、この「個人災害救済法」も自然災害による個人の被害を救う国の対応が方向付けられたと云うことで極めて大きな業績で忘れることの出来ない事柄である。

今、雲仙普賢岳の噴火で多くの人が苦しんでいるが、存命であればその救済に情熱を燃やしているであろうと思ふ

と早過ぎた死が悔やまれてならない。

佐藤隆君は、昭和41年1月参議院議員佐藤芳男先生の秘書に就任し、正式に政治の世界に足を踏み入れることとなるが、既に前年10月に芳男先生が、第七回参議院通常選挙の当選挨拶状の中で、息子隆の政界進出を仄めかした一文(別掲)がある。その時期、衆院第二区は大きな政治的変

動を抱えて騒然としていた。二区選出の古豪代議士渡辺良夫先生が病没され、後継者を巡つて賑やかなものがあつた。当時隆君は、農林漁業金融公庫の調査役として、県内特に二区内を廻つて熱心に情報を集めておられ、我々同期や先輩の意見もよく聞いておられたようだ、若冠38、9才の彼



新潟中学4年当時の佐藤君(小沢所蔵)

は生氣撥刺として魅力十分な男前であった。県内の農業諸団体を始め、佐藤家をとりまく政治勢力の強い支持と推挙を基に、41年佐藤隆後援会（一隆会）を結成して選挙活動を開始した。（別掲）

翌42年1月第31回総選挙に初出馬したが、自民党の公認が得られず次点で惜敗した。同期同窓の人々で個々で応援された人もいたが、いかに気持ちが高揚しても組織的に動かなければ大きな選挙では思いうような力を発揮することが出来ないこと云々を、思い知らされたのである。彼は敗れても颯爽たる態度で、捲土重来を誓ってくれたので期待して同期生有志の意見が生


れ、支援体制を作ること一致した。柔道部であった彼の為、広川彰恩、成田昭一、椎谷正男諸氏を始世話人数名が相談し、毎月第三日曜日に会合し、選対会議を持つと共に、一隆会の会友として支援活動を推進した。即ち三月会の発足である。やがて同年8月、羽越水害で急逝された芳男先生の跡を継いで、参院補欠選挙に出馬し初当選を飾った。三月会はそれぞれ役割を決め、県内を駆け巡ったことは懐かしい思い出である。次いで今は亡き鎌富会長の肝入りで、青山同窓有志会佐藤隆後援会も結成された。三月会は参院選2回、衆院選5回微力ながら協力して来たが、三月

昭和16年4月に、私の叔父が探してくれた二葉町三丁目土屋宅に下宿して、新中へ通学を始めた頃が、彼との初めての出会いであった。佐藤家の別荘が私の下宿の近くにあって、彼も新中在学当時はそこに住み、通学していた。松林の中の二葉校のグラウンドがすぐ近くにあり、よくキャッチボールや草野球などして遊んだことを懐かしく思い出します。色白で病弱な兄の一

昭和四年十一月
佐藤芳男
参議院議員会館にて

昭和17年11月

会の名を知る人は、同期生以外は少ないと思う。彼の死に伴い静かに消え去るのである。



ひのにも おにすまとは なかりけり
なされに かすむ こしりやまかお
佐藤芳男
昭和四年八月

選挙日増しに加わって参りましたが、お元氣のこととお喜び申し上げます。
みな様からのご援助に感謝し、政界進出に備えて、懸命に奔走を続けております。必ず初心を貫く決意です。
何分ともよろしくお願い申し上げます。

（一隆会）
佐藤隆後援会（連絡所）

新津市・中浦連絡所	五井市・三津九所	白根市・三津九所	東 浦 連絡所	新発田市・北浦連絡所	新発田市・北浦連絡所	村上市・岩船那連絡所	東田宅	東京事務所
電話 (0262) 2230	電話 (0262) 2230	電話 (0262) 2230	電話 (0262) 2230	電話 (0262) 2230	電話 (0262) 2230	電話 (0262) 2230	電話 (0262) 2230	電話 (0262) 2230

故人を偲ぶ

53回 河合 忠衛

昭和16年4月に、私の叔父が探してくれた二葉町三丁目土屋宅に下宿して、新中へ通学を始めた頃が、彼との初めての出会いであった。佐藤家の別荘が私の下宿の近くにあって、彼も新中在学当時はそこに住み、通学していた。松林の中の二葉校のグラウンドがすぐ近くにあり、よくキャッチボールや草野球などして遊んだことを懐かしく思い出します。色白で病弱な兄の一

私は一足先に東京農大に進学していましたが、彼は予科練から復員し、一度、県立農専に入學したが、舎監と喧嘩したとこで、自主退学し、東京農大に再進学して来たのです。そのため、私より一年下の学年になりました。奇妙なもので、旧制中学は一年先輩、大津は一年後輩になった訳です。東京農大ではその当時、上級生、下級生の礼儀が厳しく、彼の方から私に敬礼をして来たので、私は大変困惑したことがあります。東京農大卒業後は、双方校友同志で、年一回の県支部総会には、毎年顔を合わせ、旧交を温めておりました。また、青山同窓会の総会には、ホテル・オークラで彼はいつも私達の隣の52回生のテーブルで、お互いに酒をつぎ合い、健闘を誓い合ったものです。今から5年前、私の長男が結婚式を新潟の某ホテルで挙げた時、彼は新潟県サッカー協会の会長で、私の長男は新潟イレブンの GKの選手であり、長岡向陵高校サッカー部の監督も兼任していた関係で、披露宴に招待したところ、農水相になる前の多忙な政治活動の寸暇をさいて、来賓として出席され、国連で立派な業績を残された人口論を熱く祝福して戴きました。彼の死はまさに「巨星墜つ」の言葉通り、惜しい人物でした。告別式には火葬場まで行き、最後の別れをしりして筆を擱きます。

佐藤さんを偲ぶ
53回 中島 常雄

(東京農大教授)

佐藤さんの農林水産大臣就任を御祝いして、東京農大で、本当にささやかな祝賀会を開いた時、「初代の谷千城大臣から数えて、第119代の農相に就任しました。本学創立者の榎本武揚先生は御二人目の農商務大臣でした。」そんな一節が、佐藤さんの挨拶の中にあった。こういう挨拶は、何とはなしに、「オラガトコの大任」というような気分に

する。農大が出した初めての農水大臣である。農大挙げての支援となれば立派なものだが、何が出来たわけでもない。御世話になったばかりというのが本当の所であろう。それとはともあれ、佐藤さんは、大変な時期の農水相であった。日本に対する、農産物輸入自由化の要求が一つの山場を迎え、牛肉・オレンジについての自由化を飲まざるを得ない局面での就任である。アメリカが要求しているということだけではない。国内においても、経団連の提言や、前川リポート等が出揃い、国論の半ばは、鋭い農業保護に背を向けている。大勢は如何ともなし難く、佐藤さんの立場は、孤軍の将ともいう所である。



三重海軍航空隊奈良分遣隊（奈良県丹波市町（現在天理市））に入隊致しました、そこで佐藤君と一緒に来たのは、私も彼と一緒にの班（15名）で、彼は非常に頭の回転が早く且つ敏捷でまことに要領がよく常に私の兄貴分として可愛がられて戴きました。戦局も一層厳しく成り私達の練習機（白菊）も特攻機として出撃して行き私達練習生は毎日防空壕掘りに明け暮れて居りました、同じ班に長井君（乙飛）佐渡郡真野町出身の方も居られ戦後間も無い頃真野町のお祭りに招かれ佐藤君と一緒に長井君（故人）の家に泊り米粒の入ったどぶろくを井で腹一杯御馳走になった事など懐かしい思い出として脳裏に浮かびます。8月15日午後重大発表

在りし日の隆先輩を想ひびて

55回 早福 卓

たろうか。敗けるに決った戦いの責任を敢えて引き受け、力を盡してこれに立ち向かう。越後モンの土性骨でもあろうか。我々の風土は、歴史の折目折目に、こういう人物を生み出して来たようである。常勝のヒーローではなく、苦渋に満ちた任務の担当者。農相としての佐藤さんはそのような立場ではなかつたらうか。政務はまことに苛酷であり、佐藤さんの消耗は、余所目にも著しかった。私など何が出来るわけでもないが、それにしても、あの頃の佐藤さんに何の御手伝いもしなかつたことが悔まれる。御冥福を祈るといよりは、御詫びを申し上げたいというのが本音である。

故佐藤隆君の思い出

53回 橋本 一弥

（三重空予科練、鈴鹿飛練、同期同班）

本日（平成3年8月15日）46回目の終戦記念日に際し故佐藤君との思い出を乏しい記憶を辿りながら述べてみたいと思ひます。

隆さんは私の二年先輩です。戦時に学んだ私達は軍事教練が重要科目で特に厳しく鍛えられました。陸軍大尉齋藤栄治（綽名シャモ）教官指導のもと、私共一年生には三年生が教導として教練を指導して呉れたのです。その故えか、私共にとっては52回の先輩には怖さの反面親しさも持つていました。昭和42年8月下旬越水害で犠牲になられた、御尊父の跡を継いで政界に進出した時に「田中角栄派」に所属したからと言つたら「福田さんは、親父との生前の親交を重んじて亀田町の本葬にも出席

53回 橋本 一弥

して戴いた因縁がある」と言っ
て打算を排して福田派入りを
し、青陵健児の硬骨振りを見
せて呉れました。亦、昭和47
年参議員当時、農水政務次官
の頃、市街地から畜産公害を
減らす為県事業として施工さ
れた「畜産団地推進事業」が
出雲崎町に建設中、集中豪雨
に見舞われて災害復旧費約二
千七百万円が必要となったと
き、県側は転出業者が全部新
潟市民であるから「復旧費」
は新潟市で負担してもらいた

ひと味違う人

56回 山崎 洪一

今を最善に生きようとした
男であつたと思う。私が新潟
日報東京支社報道部に在職
(昭和46年〜52年)していた
ころのことである。佐藤さん
は当時参院に属し、まだ40歳
代の青年議員であつたが、国
会ではすでに「災害男」とし
て、その名を知られていた。
そのころ、二人だけの時、し
ばしば口にした言葉がある。
「今、自分でやれることを、
どこまできっちりやれるか、
だこてね」。これは、災害で

いとの意向を示し県と市が綱
引きをしていた時に、私が隆
先輩にSOSを発信したら、
上京して次官室に説明に来い
と言う事で、日程を打合せて
参上しました。次官室に通さ
れて説明を始めたら「分つた」
と一言。私が新潟に帰りつく
前に補助金増額の話が決り、
当時の川田県農水部長が飛び
上つて驚いたのも懐しい想い
出であります。謹んで哀悼の
意を表します。合掌

までに経験したことのないコ
メ過剰時代に突入しつつかつ
た。にもかかわらず多くの議
員たちは選挙地盤向けに米価
引き上げのみに狂奔していた。
佐藤さんも、もちろんその中
心的役割りを果たした一人で
あつた。しかし、ひと味違う
というのはこの時すでに彼の
視点は世界に向けられていた
ことである。やがて農林政務
次官となる。このころの彼の
勉強は、コメを基点として世
界の食糧問題へ、そして人口
問題へ、さらには途上国の開
発にまで範囲を広げてゆく。

友情の木

58回 渡部 豊悦

コブシは、もくれん科の落
葉喬木で花言葉は「友情」で
ある。山地では春を告げる木
として知られ、新葉に先きが
け小枝の先に有香の白い花を
つける。私は、故佐藤隆先生
が母校にコブシの木を記念植
樹されるまでこの花言葉を知
らなかつた。私が県の治山課
長の職にあつた当時、林野庁
の造林課長から「農林水産大
臣が母校に記念植樹されるの

これが後の名誉ある国連平和
賞の受賞や、農水大臣として
の国際社会での活躍につなが
たのである。このころの佐藤
さんの、もうひとつのハイラ
イトは衆議院への出馬であつ
た。そのことは他の人々の筆
にゆだねることにするが、と
もあれ彼の政治スタンスは、
だれにおもねることもなく、
常に己れの為すべきことを忠
実に、確信をもって実行する
という、いまだき稀にみる政
治家の一人であつたといえよ
う。

痛恨

61回 藤井 真夫

でコブシの木を準備できない
か」と電話があつた。お偉い
方の記念植樹は大変である。
万一のことを考え二本は準備
しておかなければならない。
また、コブシは、山地にはあ
るが庭木としては見たことも
無い、果して準備できるかど
うかは心配であつたが大臣の
記念植樹でもあり、また、私
の母校でもあるので準備に奔
走した。昭和63年の暮も押し
こまつた12月17日、小雪のち
らつく小寒日であつた、先
生は、52期生有志と母校の青
陵健児像の脇に記念植樹をさ
れ、その後、体育館で友情の
木、農産物の市場開放、国際
問題等について、講演をされ
た。記念樹にこのコブシを選
ばれたのは、この木の花言葉
が「友情の木」であることと、
同年11月28日長年駐日米大使
を務められたマンスフィールド
ド氏が日本を去られるに当り、
佐藤農林水産大臣と国会議事
堂前の憲政記念館表庭にコブ
シの木を記念植樹された困縁
によるものである。氏は、11
年半の長きにわたり、日米関
係のために尽力され、また、
農産物の市場開放問題では先
生と特に関係が深つたが、記
念植樹は友情を大切にされた

私は佐藤先生を、直接には
存じ上げておりません。農業
団体の職員として、農政運動
の上京団に加わつた僅かな機
会、あるいは昭和60年3月国
連平和賞に輝いて、青山同窓
会総会で挨拶された折などに、
大先輩として遠くから仰ぎ見
ておりました。

しかし、折にふれ関係者が
語ってくれる先生の高く広い
次元での見識・熱い行動力・

固い信念で農政の道に力を発揮されるご活躍は、農業関係者にとって大きな柱であり、力強い指導者としての強烈な存在でありました。また後輩としては大きな誇りであり、畏敬の人でした。その国政に殉じられた壮烈なご生涯には、ただ痛恨と申し上げるのみです。

一貫して農政関係の要職をめぐって来ました。「国際化の必然的な流れにあって孤立を避け、同時に日本の主権を守り食料政策を貫く」というお立場から、「譲るべきは譲る、守るべきは守る。評価は歴史が決める」として、体をはって守り育てて来られた日本の、新潟の農業にも、除々にあたらしい農業めざしての変化が進んでいます。先生、どうぞこんごとも見守り、お導き下さい。

隆先生と寿司

66回 吉田 六左エ門

ひと昔も前のことですが、昼食時新潟駅の地下街みなと寿司でさけの親子鮎を買って、

業関係諸制度の見直し、そして全米精米業者協会の日本のコメ市場開放提訴と一連のコメ輸入自由化問題など。先生が大臣ご在任中に、心血を注いで解決にあられたこれらの課題は、今後の日本のくらしに変化をもたらしてゆく大きな要素となろうかと思われまます。

ことしもまた、実りの秋がめぐって来ました。「国際化の必然的な流れにあって孤立を避け、同時に日本の主権を守り食料政策を貫く」というお立場から、「譲るべきは譲る、守るべきは守る。評価は歴史が決める」として、体をはって守り育てて来られた日本の、新潟の農業にも、除々にあたらしい農業めざしての変化が進んでいます。先生、どうぞこんごとも見守り、お導き下さい。

「死を見つめつづけた青春」
—新潟県甲飛十三期生の記録—
への投稿
わが人生のひとコマ —深く厚く重く—
新津市 佐藤 隆

いま、地球上に約五十億の人間がひしめいている。みんな平和を求め、今日よりも明日へと期待し、希望をつなぎ切磋琢磨している。物や金で不満の人、満足している人、心豊かな人、すさむ人、そこに悲劇がおこり、幸、不幸があり歴史がつみ重ねられていく。お互い人生のひとコマが

そいそと席をお譲りしたことを思い出します。暖かく、大きく同窓誰もが、話のわかる良い兄貴と信じ尊敬してやまない、先生のお人柄を感じていただければと記しました。去年の暮れそして新年早々、私のこれからの身のふりかた等に、ご心配を頂きいろいろとご心配いただきましたことを、感謝申し上げます。御冥福を心からお祈り申し上げますと共に、いつまでも我等が青山健児すべてをお見守り頂けますようお願いばかりです。有難うございました。

同期の桜の冥福を生涯とも祈り続け乍ら、同じ体験をし、苦勞を乗り越え、いまなお生きながらえている同僚の友情は尊いものであり、再会が楽しみである。世話人のみなさんに感謝している。戦いの悲劇を経験したその後について、附言しておきた。歴史とは、戦争と災害のキズ跡そのものと言える。昭和42年羽越災害(八・二八集中豪雨)で、両親と長男・三男

ご挨拶
農林水産大臣
52回 佐藤 隆

青山同窓会の皆さん、明けましておめでとございます。旧ろう、還暦を迎えた私が新潟中学を巣立つて、はや43年、懐かしかったあの頃を想いつつ、いま、厳しい国際経済状況の中にあつて、四面楚歌である農林水産行政の重い仕事にどっぷりつかかり連日連夜、苦闘をいたしております。農林水産大臣は、明治14年の初代農商務卿から数えて私で一九九代目だそうです。落し話してはありませんが、けたたましいサイレンを鳴らして走り回る。一一九番にピッ

を失った。思い出したくない。悔んでもいたしたくない。しかし、恐ろしい自然災害で数多くの人命が失われていく現実を看過できない。人の命の尊さを知るべきである。でなければ、なにが文明進歩であろうか。「人命の尊厳」「平和への道」を如何に守り、きり拓くべきか、生がし生されてくる者の責任である。その責任を負わなければ、と誓いあらたにいたしました。

りました。柔道衣をつけ、荒波の日本海に向って大声を張りあげた少年期から青年期への曇りなき鍛練が、いまの政治活動にど根性として、どれだけ役立っているのか。

思い出はつきません。

閑屋ダンゴも忘れられませんが、あの「閑団」の影響で今なお私はお団子、饅頭、餅に目がなく、私の食生活の大きな部分を占領しています。

ところで、さんざん回り道をしてやっと大臣というポストに就かせて頂きましたが、所詮は新潟モン。農政のエキスとか、ベテランとおだてられ乍らの国会答弁では、いまだに「い」と「え」の区別がつかず、度々TVの視聴者から叱責の投書をもらい、いささ

（青山同窓会会報

佐藤農水大臣

母校で講演、植樹

小雪舞い散る昨年12月17日に、佐藤隆農林水産大臣（本校52回卒）の講演会が母校体育館で、期末考査を終えたばかりの後輩を前にして行われました。終始、母校を、後輩を思う情熱溢れる大臣の講演に生徒達は魅了され、期せずして二学期の締めくくりに豊かな色を添えることとなりま

か面くらっています。新中時代、国語の先生から「いとエが出てきて、分かんなくなつたら、逆に言え」と言われたことが、またまた懐かしく思い出される昨今です。

新中時代、決して優等生ではなかった佐藤隆ですが、今日の私を作った土台は、すべて旧制新潟中学・青山時代の体験に基くものです。未完成ものですが、どの分野にも共通する「道無限」を腹に据え国際的な生きもの、政治の世界でさらに精進を続けてまいります。

諸先輩はじめ、同窓各位の一層のご教導・ご鞭撻をお願いいたします。任重し期すところあり初詣

一粒

48号、平1・1・24発行より）

した。

この講演会は、昨秋東京で開かれた東京青山同窓会総会で「母校あつての私であり、後輩達のために直接何かをしたい」と大臣がお話になったのが発端となり、筑波龍二氏（本校52回卒）並びに宮地学校長のご尽力により実現の運びになったものです。

学校長の、佐藤氏は青山健児として初めての大臣であり、また氏の党・政府における輝やかしい経歴などに触れた講師紹介のあと演壇に立たれ、紺のスーツに身を包んだ大臣は相変わらず若々しく、ガッツに満ち説得力ある話し振りに、聴衆は約40分の講演時間もあつという間に過ぎてしまつた感を抱かれました。

特に昨年8月に解決をみた牛肉・オレソジ日米交渉の件を採り上げ、「主権国家としての日本の利害を考えなければならぬ」と同時に「日本は国際社会で孤立してはならない」という二律背反の性格を孕む前提の中で、日本代表としてぎりぎりの線での交渉打開を図つた奮闘の日々を披露され、聴く者の胸を打ちました。

さらに家庭的に不幸を体験された大臣は、社会的に最小単位である「俺の家」をどうするのか、ひいては「俺」自

身どうするのか、を考える必要があると力説されました。それは試練に立たされた時、「自分はいつたいどうするか」の思いが必ずやついてまわり、その際冷静な判断、対応に迫られるからだとし、それには日頃から自分の哲学を持つ必要があると話されました。

佐藤大臣、お疲れさまでした！

お疲れさまでした！

（東京青山同窓会会報 7号、平1・7・15発行より）

春とはいえ、ことのほか暖かい3月4日、佐藤隆元農林大臣を囲んで、青山同期の52

身どうするのか、を考える必要があると力説されました。それは試練に立たされた時、「自分はいつたいどうするか」の思いが必ずやついてまわり、その際冷静な判断、対応に迫られるからだとし、それには日頃から自分の哲学を持つ必要があると話されました。

講演会に先だち、大臣来校の記念植樹が前庭の青山健児像のわきで行われました。佐藤大臣は「自分が今日あるのも母校は勿論のこと、友達、友情あらばこそ」の信念から、千昌夫が歌うあの「北国の春で名高い、「友情」のシンボルでもある辛夷（こぶし）の樹を母校に贈呈されました。今春にも花をつけるだろうと思われませんが、在校生が卒業後、母校を訪れた際、辛夷の花を見る時、きっと佐藤大臣のあの心のこもつた講演に思いを馳せることでありましょ

う。

（東京青山同窓会会報 7号、平1・7・15発行より）

春とはいえ、ことのほか暖かい3月4日、佐藤隆元農林大臣を囲んで、青山同期の52

63年6月20日、懸案の日米牛肉・オレソジ自由化交渉は、佐藤農相と米通商代表部ヤイター代表との間で覚書を交換し決着した。同年2月に第1回の協議を始めていらい実に130日目であった。

期せずして同期生の間から声上がる。

「ホンネ、ヨーガンバツタネ、ミンナシテナンカイロウシヨウテバサ！」

そこでもめでたく当日の運びと相成つたのだが、席上、交渉時をふりかえつて元大臣はいう。ヤイター代表と初顔合せの折、自分は農林大臣としては119番目、いわば日本の火消し役なんだといったら、すかさず彼は、それならオレはアメリカの火つけ役だな、と切返し、お互い笑いながら握手した。というエピソードを披露。ついで現在の心境を

「春の日の如き心で語らばや一粒」という俳句に託し、その場で短冊に認め同期生一人一人に配る。

かくして和気あいあいの宴はつきず、桜は未だしといえども春宵正に価千金、いやが上にも盛り上つたのであった。

おしまいに一言、このたびの会は、やはり同期の吉兆ご主人湯木昭二郎氏にひとかたならぬお世話になりました。ここから御礼申し上げます。（主婦と生活社 村川修次郎）

おしまいに一言、このたびの会は、やはり同期の吉兆ご主人湯木昭二郎氏にひとかたならぬお世話になりました。ここから御礼申し上げます。（主婦と生活社 村川修次郎）

編集後記

佐藤隆代議士が急逝されてから、はや半歳が経ちました。同窓会ではすでに平成3年7月18日号会報で、故人の追悼特集を掲載いたしました。佐藤君は余り自己宣伝をされない人柄でしたし、金権体質を最も嫌つた政治家でした。彼の業績は国会議員として、亦大臣としての公式的なものは、マスコミを通じて国民のよく知るところですが、今回は同窓と云う限られた私的グループの中で、親密で温く且つ人間臭い絆が持つエピソードを集録し、惜しまれつゝ、他界された偉大な庶民派政治家の思い出を残したい意図で企画しました。

諸兄のご協力を心から感謝申し上げます。（52回 筑波）

（52回 筑波）